

令和7年度 第1回白井市市民活動推進委員会（審査会）会議録

1. 開催日時 令和7年5月13日（火）午前10時～11時30分
2. 開催場所 白井市役所本庁舎2階 災害対策室2
3. 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、赤間賢二委員、大田茂子委員、
富澤賢司委員、木下新治委員、篠原美保委員（名簿順）
渡辺しろい市民まちづくりサポートセンター長（参考人）
4. 欠席者 なし
5. 事務局 元田市民活動支援課長、石田主査、栗原主任保健師、伊東主事
6. 傍聴者 なし
7. 議事
 - （1）令和7年度市民団体活動支援補助金の審査について[公開]
 - （2）令和7年度市民団体活動支援補助金の書類審査について[非公開]
8. 会議概要

（1）令和7年度市民団体活動支援補助金の審査について（資料1）

（事務局説明）

○委員長

ありがとうございました。

流れとしては、本日の書類審査と23日のプレゼンテーションで今年度の補助金採択団体が決まるということですが、今日は点を荒くつけていただいてもいいですが、お話のありましたとおり、あくまで最終的には23日に点数を確定させるということです。皆さんはこの審査を昨年もやっていただいたのでご存じかと思いますが、プレゼンテーションの際は質疑の時間が限られていて、基本的にはどなたでも質問していただけますが、時間の関係上、全員が質問できないことも考えられるので、今日の書類審査ではみんなで申請団体への質問事項を出す場として捉えていただければと思っております。

何か流れについてご質問ありますか。

（質疑なし）

○委員長

去年もやっているのですかね。

そうしましたら早速ですけども、個別に団体の審査に入っていきたいと思っておりますので、ご準備よろしくお願いします。

（2）令和7年度市民団体活動支援補助金の書類審査について（資料2、3、4）

(1 番目の団体について事務局説明)

○委員長

ありがとうございました。

それではまず第1 番目の団体さん、ひだまり食堂について何かございましたら、お願いします。

はい、どうぞ。

○●●委員

書類を見る限り、促進型は新規立ち上げ、または活動間もなく、いわゆるスタートアップ事業だと思いますが、全く実績のない部門を含めてスタートアップをするとすると、この団体の場合特に気になるのは食品の衛生の観点です。

今後、食品衛生の研修などを受けられるようですし、かつこの団体は他の団体から食品衛生のサポートを受けるようですが、それでも書類審査以前に、食中毒とかのリスクの管理は大丈夫なのかなという懸念があります。制度上4 月から事業をやらなきゃいけないというのはわかりますが、試行期間のような猶予期間を設けたほうが良いのではないかと、というのが一つ感じました。

あと、私は第二次ベビーブーム世代ですが、周りに「鍵っ子」がとても多くて、そういう子ども時代でした。今はそうじゃなくて、孤独な老人が多くなってきている状況で、今その世代も介護保険とか生活保護とかで救われている世の中で、子どもへの制度も前述した昭和の第二次ベビーブームの状況とは異なり、地域としてこの事業がどの規模で必要とされているのかな、というのが少し気になりました。地域課題として必要かどうか、というのが審査項目にもあると思うので、これが一つ気になる点だと思います。

また、補足資料がつけられていましたが、市が定めた書類以外に追加するなら、様式の備考や書けそうな場所に書かないと審査書類として他の団体と優遇差が出来てしまい何のための補足資料なのか少しわかりづらいと思いました。

最後ですが、団体概要書のところに主な活動実績ということで、これまで何もされていなかったのか、もしくは個人ボランティアでやられていたのか、団体ボランティアとしてやられていたのか等といった団体の母体となるもの、もしくはその核となるものが全く見えないので、素人の集まりなのか、社会福祉協議会等でサークルとかやられていたのかというのが書いていないので、非常に「公益性」とかで実績が出すことができるのかどうかというのが、この書面上からは全く空白なので、不安だと見ていて思いました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。他はいかがですか。

はい、どうぞお願いします。

○●●委員

子ども食堂とか高齢者の食堂を私は少し経験してやっていますが、ちょっと心配なのは募集方法と、それから私の経験ですが、同じ人がずっと参加しに来るのです。参加した人が次の申し込みをしますので、新しい人がどんどん入ってこないのです。そういうことがこの書類には載っていないので、どういう方法でやるのかなと感じています。

それと、予算的に食堂1回実施に対して1万円分原材料費を使うと書いてありますが、1回1万円というと結構良いのが出せるのかなと思います。私がやっている食堂は1回20人くらいの規模でやりますが、だいたい5千円から6千円の範囲でしかできませんので、これも内訳などどのくらいかけているのかなと少し気になりました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。他はいかがですか。

はい、どうぞ。

○●●委員

食材をどこから仕入れるのかとか、大体この辺と連携してやっていきますとか、誰が作るというところで、確かまんぷく食堂さんは地域でそういうことをやっている方が作っていらっしゃったと聞いたことがあります、ひだまり食堂さんの場合は誰がやるのかが気になりました。

例えばご飯を作るだけなら誰でも作れますが、それを提供するとなるとやっぱりちゃんとした資格なりないとだめじゃないのかなと不安に思うところがあります。誰にお願いする予定で、その人には確約をもらっています、みたいなそういう安心感のところが少し欠けているので、そこを聞きたいなと思いました。以上でございます。

○委員長

ありがとうございます。他はいかがですか。

このあたりでよろしいでしょうか。

参考までに、子ども食堂に対する法規制がどうなのか、という点ですが、子ども食堂が普通の飲食店と何が違うのかというと、普通の飲食店はご指摘のとおり、保健所に届出して、保健所に許可もらって食品衛生責任者とか置かなきゃいけない。これは義務付けられているわけです。それやらずにやったら捕まってしまうわけですね。

ただ、子ども食堂は飲食店とは違って、もちろん資格は取った方が良く、ちゃんと食品衛生責任者研修の費用が予算書には示されていますので、衛生面での意識はあるというのと、あとは実施体制も初回はまんぷく食堂さんのサポートで勉強しようという雰囲気は書類上に書かれているので、一定程度そこは手当てしようとしていることは読み取れます。子ども食堂と飲食店を同列に考えてしまうと、ボランティア活動、市民活動でやっている子ども食堂が軒並みダメということになってしまう。だからといって、もちろん食品衛生の安全性をないがしろにしていけないというわけではないですが、そこは区

別して考えていただけるとよろしいかな、と思いました。

というわけでひだまり食堂さんは以上の意見を踏まえながら当日ぜひご質問していただければと思います。

○事務局

委員長、事務局から少しよろしいでしょうか。

○委員長

はい、どうぞ。

○事務局

委員から意見のあった地域課題の関係ですが、地域課題として子ども食堂があたるのかということについては、市としてはあたるというふうに考えています。

その手法がマッチするかどうかは別ですが、昔の世代はやはり鍵っ子が確かに多かったですが、家族の状況が今と昔でずいぶん違ってきているので、その点としてはあたる、と市としては思っているということだけはお伝えしていければと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございます。

続きまして、2番目の団体の「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会、同じく活動促進型ですが、説明をお願いします。

(事務局説明)

○委員長

ありがとうございました。

それではこの2番目の団体さんについて、またお願いします。

まず私から、皆さんもしかしたら分かりづらいかと思いますが、グリーンスローモビリティの実証実験、運行という取り組みが、この補助金の事業とは別にあるわけですね。我々の方に申請されているのは、あくまでPRとそれに付随する講演会事業で、大学の先生をお呼びして講演会をやろうという部分を切り出して申請されているという理解で、確認してよろしいでしょうか。

○事務局

その認識でお間違いないです。

○委員長

わかりました。ありがとうございます。

では、その前提で皆さん、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○●●委員

ありがとうございました。

試乗会は今回しないのでしょうか。非常に面白いなとは思っていますが、講演会とPRだけで試乗会自体はしないのですかね。書類ではその是非が分からなかったのも、試乗会が実施されれば行って試乗してみたいなという気持ちがあります。

○委員長

今回、団体としては試乗をもちろんする予定ですが、ただ、今我々に申請が来ている事業の中では試乗会関係の実証実験はメインでないのも、詳しく書かれていないのもです。12月に試乗アンケートというのが事業計画として入っていますので、おそらくこの講演会の開催と試乗アンケートの間に試乗会があると思います。

括弧書きとかでも書いてあると申請事業との繋がりがわかりやすいのですが、一部を切り出して申請されているので、全体的な流れがわかりづらいというのはおっしゃるとおりだと思います。

○●●委員

これを見ていて、色々なところでこういうことをやっていくことは間違いないんですが、これは業者を募ってやるのか、試乗会を実施してみるだけで済みますのか、何が目的なのかということが気になりました。市内の事業者にもこれをやってもらう方法になるのか、それとも行政にお願いしてやってもらうのか、そこが少し見えないのです。ただ講師を呼んで、こういうことがありますよというだけで終わってしまうと仮定すると、少し物足りないのかな、と思います。以上です。

○委員長

移動の問題は被災地でも問題になっていますし、千葉県でもバス事業者がどんどん運転手さんの不足とかで業者が撤退していますし、私の地元もだいぶバス路線が廃線になっています。

いわゆる福祉運送ですとか、無償で行うボランティア運送、あるいはオンデマンドの話だとか、最近だとカーシェアリングの仕組みとかいろいろ出ていると思うので、ハードの仕組みとしてはこういうグリーンスローモビリティという自動車を誰が運行するのかとか、どういう形態でやるのか、行政か、あるいは民間事業者がやるのか、自治会がやるのかというところもあると思いますし、四国の山の中とかだと自治会が運営している事例も確かあったと思いますが、そういうのも含めて、講演会でお話があって、さあ、白井の皆さんどうしますかと白井市に政策提言するかもしれない。すでに副市長にお話されていると書いてあるので動いているようですが、じゃあ、我々でそういう住民団体を作って運営しようみたいな話になるのかはぜひと思います。プレゼンで聞いてみたいですし、皆さんも質問していただきたいと思います。

はい、どうぞ。

○●●委員

委員長からその説明があるまで、私もこれは本来、市の都市建設部で包括的にやるべ

きなんじゃないのかなとか、社会実験でやるべきじゃないのかなとずっと思っていました。いわゆるゴルフ場にあるカートみたいなもので、保険に入らなくても大丈夫なのかとか、色々と思っていたのです。

あと提出書類が雑で読み取れないですが、例えばどこでやるのかとか、何回かやるのか、それともYouTube配信でばらまくのかわからないですし、この審査会の審査項目に照らし合わせて見ると、都市建設部でやっていたとしたらこれはお墨付きをもらっていると、では、「講演会」だけをやるとすると、審査項目として必要性、公益性、実現性、自立性、自発性がありますが、どう評価すればいいのか、そこが評価しづらいというのが大きいです。

もっと確認したいことはありますが、最初に受けていた印象と違ったので、どのようにプレゼンとか審査をして測れば良いか、少しわかりづらいな、というところですね。以上です。

○委員長

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

ちなみにスマホでグリーンスローモビリティ導入の手引きを国交省のものを見ているのですが、松戸で導入しているみたいですね。

○●●委員

松戸の実証実験の動画を少し観ましたが、スピードが20キロです。この車は果たして安全性があるのか色々考えると、例えば観光地で移動手段としてポイントを周るというイメージでその動画を観ていたのですが、果たして白井市で公道をこの車が走った場合、安全性とか、スピードが20キロで一般車の妨げにならないかなど、マイナスの側面からですとまずそんな印象でした。

ただ、住宅街を走るとするとそういったところは交通量も少ないので、ニュータウン地区とかそういったところでは可能なかなと思いました。

私もグリーンスローモビリティの動画をすべて観たわけではないので、わからないところが少し多いという印象ですので、当日、プレゼンテーションの中で伺いたいと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございます。他、いかがですか。

どうぞ。

○●●委員

この団体の具体的な導入イメージをぜひプレゼンテーションの際に伝えていただけるといいかなと思いました。今後色々実験してみて変わることもあるとは思いますが、白井市の地域特性に応じた導入イメージ的なものが恐らく団体の方であると思います。思い描いているイメージを伝えていただけるとすごく分かりやすくなるのでは、という

審査の上での要望ですね。

団体に伝えていただけるとありがたいです。

○委員長

余談ですが、住宅地内とかさまざまなところで交通事故が結構相次いでいることを受けて、基本的には、住宅地内とか幹線道路以外は30キロ制限になるかもしれない、というところで、ある意味、グリーンスローモビリティには追い風かとも思いました。

どのみち20キロしか出せない、それでも事故は気をつけないといけないと思いますが、その福祉運送とかでもドライバーの手配といった人材の確保が難しくなっている現状もあるので、グリーンスローモビリティであれば、私も免許を持っているからボランティアでやるよ、みたいな方が出てきてくれるかもしれないですね。楽しそうですしね。

本当に国交省の手引きでも楽しいって書いてあるのですよ。「運転者も楽しい」っていう。やはりボランティアにも少しは楽しさがないと長続きしないので、私は免許を持っていないのでできないですが、面白そうだなとは思いましたね。

他はどうでしょうか、よろしいですか。

はい、どうぞ。

○●●委員

いわゆるグリーンスローモビリティに関して、少ない情報で予習したり、この資料を追加でもらったりとかして、本当にベースの知識がない。

いわゆる歩行者扱いのキックボードの問題とかあるので、これから交通手段の「変化」が生まれてくる。そのニーズがあると、グリーンスローモビリティは白井市にとってどのあたりに必要なのか、もし住宅街などくまなく走らせるとしたら既存の交通手段である自動車、自転車、さらに歩行者への影響がとんでもないものになってしまう。だったら観光地で、と言われたときに先ほど委員さんがおっしゃったように、例えば市役所と白井駅の間を結ぶのかとか、そういうイメージが繰り返になってしまいましたが、市の都市建設部かどこかで補助金をもらっているでしょうが、なぜ都市建設部が関わりながら、「講演会」だけが本制度で必要なのかというところを少し肉付けして話してほしいと思います。所要額の大小に限らず、市民委員の立場から言えば、部署間で調整し包括的に面倒をみていただきたい。そのほうが講演会も上手くいくであろうし、市民活動支援課においては人的コストも掛からない。

今後もタイミングもありますが、他部署が関わっても講演会のような啓発は市民活動支援課の制度で「是非」を問うという棲み分けはナンセンスだと伝えたい。都市建設部が判断するか附属機関で審査するなり方法はあったはずで違和感しかない。

審査について可能であれば、別途、市でどういうふうにグリーンスローモビリティが採択されているのかをつけてもらおうと審査しやすいのかな、と思いました。以上です。

○委員長

はいありがとうございます。

池袋とか行ったことがある人なら知っていると思いますが、池袋でグリーンスローモビリティが走っています。多分18人乗りのものとか走っていますが、そこは緑ナンバーでちゃんと外部のバス会社とかに委託して走らせているわけです。白井でも路線バス走っていますよね。既存の路線と競合してしまうと意味がないので。

これも団体さんに聞けばわかる話ですが、おそらくそういった意味でなく、国交省の資料の限りだと軽自動車とか小型自動車の話ではないかなと思います。それだと本当に郊外地、ニュータウンだとかそれこそ離島とか岡山の笠岡とかいろいろありますが、別に都市部に限った話ではないと思いました。

とりあえず、そういうのも含めて、グリーンスローモビリティとは何ぞやということも我々が正しく全部理解できているかわからないので、プレゼン時間5分なのでどこまでやれるかというのは難しいですが、ぜひビジュアルも入れつつ話していただけるとよろしいかなと思います。

続きまして、促進型で一度採択されている団体さんですが、しろいdeあそ部さんです。ではご説明をお願いします。

(事務局説明)

○委員長

ありがとうございました。

それでは3番目の団体さんについてお願いします。

はい、どうぞ。

○●●委員

公民館でボードゲームというサークル活動にも多いと思いますが、ぱっと見ると、数か月に1回程度の「軽食」の記載があり、最初の団体と同じくやはり食品衛生の観点に気になっていて、研修を受講されていくのか、先ほどそこは切り離してというところもおっしゃっていたのはわかりますが、気になります。

主婦の方であれば、手洗い、除菌とかいろいろ当たり前にされているのです。この団体ではどれくらいのボランティアの方が調理に関わって一緒にやっていくのか分からない。食品衛生の担保がされているか分かりづらい。

また、熱心に子ども食堂などをやられている団体の事業と比べると、個人的には少し違和感がありました。さらに時間帯がどうなるのかとか、20時～21時という時間帯での子どもの送迎がどうなるのかとか、もっと早く帰宅させるのか、そのあたりをもう少し書類で埋めてもらいたいと思いました。

まとめると、食品衛生の問題と、他の子ども食堂の事業と比べると少し違和感があるということですね。あと夜間まで行うのであれば、子どもの参加者はどうやって送って

いくのかというのが気になりました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○●●委員

この団体は前回申請していて、実際に活動実績がかなり豊富な団体であるということですが、実は私、しろいdeあそびナイトとかボードゲームを見たことがなく、去年のまちボラひろばでやっていたかもしれませんが、その時も私が忙しくて体験をしていないのです。実際、やはり体験しないとどういう効果があるのかなというのがわからないので、この前のグリーンレンジャーさんの事業見学で現地に行ってみると、いや、これは本当にすごい活動だなというのがよくわかりましたので、委員の反省としましては、やはり採択した団体を見なきゃいけなかったなという反省でございます。以上です。

○委員長

それに関連して、しろい市民まちづくりサポートセンター長に来ていただいているので教えていただけますか。

アンズハウスって確かワカモノまちづくり部の活動場所ですよ。ざっくりした質問で申し訳ないですが、しろいdeあそび部さんとワカモノまちづくり部とのコラボ企画的なものはどうなのでしょう。まんぷく食堂さんともコラボしているとか、以前プラネタリウムのゲームの作成でも結構ハブになっているイメージがありますが。

○事務局

少し事務局で補足させていただきます。

しろいdeあそび部さんは、昨年皆様にご審議いただき、採択をされた白井市文化センターを未来につなぐ会の事業で何名かの委員が文化センターに行ってお体験していただいたと思いますが、その謎解きを作成した団体です。

○委員長

はい、それではセンター長どうぞ。

○参考人

しろいdeあそび部さんのアンズハウスでの活動は、私どものワカモノまちづくり部との活動とは接点はまた別ですが、非常に積極的な遊びの交流の場を作っているというふうに聞いています。

まちづくりサポートセンターの中では以前は多目的スペースの遊べる自習室ですね。ベイブレード大会ですとかこうしたもので、子どもたちがかなり喜んで勉強しながら、半分勉強、半分ちゃんとゲームをするというようなことを非常に楽しくやられていたなという印象がございました。

それから、先ほどまちボラひろばの話もありましたが、まちボラひろばでもこの団体

さんになるべく人を呼び込めるようなゲーム大会を企画し実施されていたので、そうした意味では非常に今の子どもたちですとか若者たちを引っ張る企画を立てているのがこの団体かな、というふうには認識しています。

○委員長

ありがとうございます。

では、●●委員どうぞ。

○●●委員

今のお話を聞いていて、ぜひ、プレゼンテーションに入ってくるといいかなと思ったのが、継続してやっている中での効果とか、持続可能な居場所づくりに繋げるとしているので、リピート率とか、さらにそこから新しくどう広がっていったところをお伺いできるといいかなと思いました。以上です。

○委員長

昨年度の会議でも最後に一番良いエピソードが出てきた、というのがありましたよね。定量的な評価が全てではないので、エピソードベースでもいいので、一人でもこの居場所があったおかげで僕は救われたとか、そういう子が一人でもいれば私は出す価値があると思うのです。

それこそ子ども家庭庁とかもいろいろな居場所の指針を作っているんで、やはりこういった多様な居場所があることが子どもたちの育成において大事なのだと時代は変わってきているのです。ただ、効果を定量的に示せるものがあるなら定量的に示してほしいし、もしもエピソードベースで何か、ここがあってよかったとか、つぶやきがあったということだけでも良いので、ぜひそういったのを入れていただけるといいかなと思いましたね。

他はいいですか。

はい、どうぞ。

○●●委員

先ほど参考人ということで、私の質問について少しお聞きできればと思いますが、アンズハウスで18時から23時、それと2か月から3か月に1回、軽食を調理、提供すると書いてあって、そのあとさきほど申し上げたとおり、子どもはどうやって帰るのかというところですが、活動の内容をご承知のようなのでもしお聞きできればセンター長さんの方から少し伺いたいのですが、よろしいですか。

○委員長

はい、ただこれはセンター長に聞いても答えられない部分ですので、当日団体にお聞きしましょう。

○●●委員

遊べる自習室は承知しているけれども、食べるものをどう出すのか、時間帯をどうす

るのか、子どもたちの帰宅方法はどうするのかというのは、しろいdeあそばナイトのことで、遊べる自習室とは異なることなので分かりかねる、ということでしょうか。

○委員長

遊べる自習室の開催場所は多目的ホールで、目の前にあるから様子はわかるというお話だと思うのですが、アンズハウスは西白井駅前のところで、わざわざ行かないと様子はわからないので、センター長はそれについて把握していないので、当日の団体さんに期待するということをお願いします。

○●●委員

では、センター長はあくまでも事業内容の中の遊べる自習室だけの話をされたってことですね。

○委員長

そうです。

○●●委員

それであれば大丈夫です。深掘りできればもっと審査しやすいなと思っただけですの

○委員長

わかりました。よろしくお願いします。

○参考人

一応私が知っている範囲ですと、しろいdeあそばナイトには行ったことはないですが、アンズハウスさんが飲食事業をやっていますので、そこでの飲食提供の一緒に活用されているのではないかな、と思います。

あと時間帯が18時から23時となっていることについてですが、これは子ども対象というよりも大人対象のゲーム遊びの場に行っているためにこの時間設定になっていると思います。一応そのように聞いております。

○委員長

はい、他はいかがでしょうか。

○●●委員

私、この団体については以前から印象に残っているのですが、事業報告書を見ると結構な人数が参加して活動が展開してきているな、というのを改めて感じたところです。

以前の審査過程で、一か所に限定して行うのではなく、ぜひ市内のいろいろな場所で展開して、多くの市民の方々に参画をしてもらえるようにと、そんな要望をしたのを覚えていたところです。今年も色々なところで活動されるということだと思いますが、ぜひ市内全域に波及、展開するような動きになれば良いな、というふうに私自身は思っているところです。

私も参加した経験がないので確かなことは分かりませんが、昨年までこれだけの事業

をされているので、先ほどのグリーンスローモビリティの話と重なるかもしれないことですが、どんな活動をしてきたのかというビジュアル的な状況、写真とか状況がわかるようなプレゼンをしてもらえるといいのかなと思っていますし、しろいdeあそぼナイトとかまんぷく無料塾コラボとかやっているようですし、公民館等でもやっているのですかね。あるいはいろいろな大会も主催しているようですので、そういった状況の写真など、言葉だけだと難しい世界かな、という気もしますので、そういったものをぜひプレゼンテーションで提示してもらえないかという要望です。

○事務局

前の2団体と違って、この団体は昨年1回補助金をお休みしていますが、実績がありますし、もちろん実績が上がっておりますので、委員がおっしゃっていただいたように、ビジュアルと、あと確か一昨年の審査のときに若い職員が、というような話があったので、結構SNSとか使ってPRをやっているかと思います。

とにかくそういう活動の様子がわかる写真等をプレゼンのときにぜひ見せてくださいというようなことは、事務局から団体に申し上げておきたいと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございます。

念のためですが、プライバシーとか肖像権は許可をいただいて、様子の写真についてモザイクとかをかけても構わないので、なんとなく伝わる感じでやっていただけるとありがたいです。

○●●委員

ここにも載っているように、公民館とか学童さんとかいろいろ行っていращやるのですが、昨年、児童館に来ていただき、子どもたち向けのものをやっていただきました。

この団体さんって、私たちが待ち焦がれている若い人たちなのです。若い人たちで、先ほどおっしゃっていた18時、23時のあたりに来られる方も、子どもではなく大学生だったり仕事帰りの方だったりというところがメインになっている。運営も参加者も本当に若い人たちで構成されているので、こういう方々がどんどん活動をしていただけるのは、素晴らしいことだなと思っているので、母親の目で見えています。以上でございます。

○委員長

ありがとうございます。

我々の委員会としても、促進型から1年お休みしてこの発展型というのは、ある意味理想的な形で進んできていただいている団体さんですので、当日もプレゼンを楽しみにしておきたいと思います。

他はいかがでしょうか。

よろしいですか。そうしましたら大丈夫ですかね。

おかげさまで盛りだくさん出していただきましたので、また出た意見を参考に当日限られた時間ですが、ぜひ活発な質疑をお願いいたします。

それでは議事２は以上とさせていただきます。